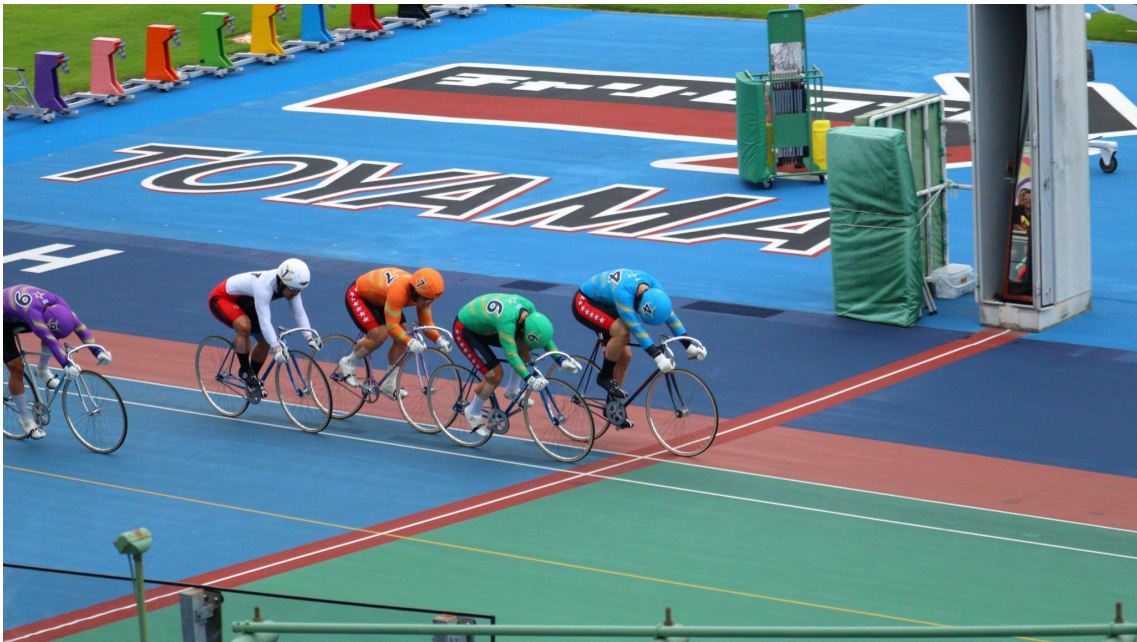


報道関係各位

2026年10月20日

株式会社JPF

富山競輪場で10年ぶりに「第42回共同通信社杯競輪（GⅡ）」を開催
～4日間で17,347名が来場し過去20年間最多を記録、佐々木悠葵選手がビッグレース初制覇～



株式会社JPF(本社:東京都千代田区、代表取締役:渡辺俊太郎、以下「JPF」)が包括運営を行う富山競輪場「ドリームスタジアムとやま」(富山県富山市)にて、2026年9月18日(金)から21日(月・祝)まで、「第42回共同通信社杯競輪(GⅡ)」が開催されました。

富山競輪場で共同通信社杯競輪が開催されるのは10年ぶりです。4日間合計の来場者数は17,347名となり、過去20年間で最多を記録しました。

また、4日間の総売上は81億8,989万5,500円となりました。最終日の決勝では、佐々木悠葵選手(群馬・115期)が優勝し、自身初となるビッグレース制覇を果たしました。

場内ではレース観戦に加え、スポーツ体験や富山の食・地域の魅力に触れられる企画なども実施しました。

競輪ファンに加え、子ども連れの家族など幅広い来場者が訪れ、スタンドやイベントエリアなど場内各所でレースや各種企画を楽しむ姿が見られました。



佐々木悠葵選手がビッグレース初制覇、トップレーサーが富山で熱戦

「共同通信社杯競輪」は、全国のトップ選手が出場するとともに、若手選手も厚く選抜され、「若手の登竜門」とも位置づけられるGⅡ競走です。

最終日の決勝では、吉田拓矢選手（茨城）が先行。番手を追走した佐々木悠葵選手が最終2コーナーから番手まくりを決めて後続を振り切り、自身初となるビッグレース制覇を果たしました。2着には小林泰正選手（群馬）、3着には犬伏湧也選手（徳島）が入りました。

佐々木選手には優勝賞金3,390万円が贈られ、表彰式では富山県出身のインフルエンサー・はじめしゃちょーがプレゼンターを務めました。



決勝では、選手同士の激しい攻防にスタンドから大きな声援が送られ、レース終了後の表彰式では、優勝した佐々木選手に多くの拍手が寄せられました。



スポーツや富山の魅力、ステージイベントも

場内では、競輪ファンに加え、子どもや家族連れなど幅広い来場者に向けた企画を展開しました。

現役の競輪選手から指導を受けながら自転車に挑戦する「おやこ補助輪卒業教室」をはじめ、JPFグループが運営する3人制バスケットボールチーム「esDGz OTAKI.EXE」によるバスケットボール企画、富山発祥のニュースポーツ「クリング」の体験など、さまざまなスポーツに触れられる機会を設けました。

また、「富山んまいもん市」や富山PRブースなど、富山の食や地域の魅力に触れられる企画に加え、著名人によるトークショーやライブなどのステージイベントも実施。スポーツ体験とあわせ、幅広い世代が楽しめるコンテンツを展開しました。

イベントエリアでは親子でスポーツ体験に参加する姿や、レースの合間に富山グルメを味わう家族連れなどが見られ、競輪観戦だけでなく、さまざまな過ごし方が生まれました。



開催前から、選手を通じて大会の魅力を発信

開催に向けては、大会ポスターに富山支部所属選手を起用したほか、大会特設サイトやFMとやまでの選手出演企画を展開しました。さらに、大会出場予定選手による公開練習やインタビューなどを通じて、開催前から大会や選手の魅力を発信しました。

富山から始まったJPFの包括運営

JPFが公営競技場のトータルマネジメント事業を開始したのは2010年。その最初の受託先となったのが富山競輪場です。

JPFの包括運営では、競輪開催に関わる業務に加え、広報・情報発信、来場者サービス、イベント、施設運営など、競輪場全体に関わる業務を一体的に担っています。

2010年から富山競輪場の運営に携わってきたJPFにとって、今回の共同通信社杯は、日々の競輪開催や来場者サービス、地域に向けた取り組みを積み重ねる中で迎えた10年ぶりのGⅡ開催となりました。

JPFでは、トータルマネジメント事業の最初の受託先である富山競輪場で、イベントの開催などを通じ、ファミリー層にも親しまれる環境づくりに取り組んできました。

【富山事業所コメント】

「10年ぶりの共同通信社杯ということで、競輪ファンの皆さまにレースを楽しんでいただくことはもちろん、普段競輪場を訪れる機会の少ない方にも足を運んでいただけるような開催にしたいと考え、準備を進めてきました。

当日は、スタンドでレースを楽しむ方に加え、地元競輪選手やレジェンド競輪選手によるトークショーを実施し、多くの競輪ファンの皆様にお楽しみいただきました。また、スポーツ体験やキャラクターショー、著名人によるステージイベントを親子で楽しむ姿も見られたことは印象に残っています。今後も競輪の魅力を届けるとともに、地域の皆さまから「競輪場があるこの街に住みたい」と思ってもらえるような、魅力あふれる競輪場づくりに努めてまいります。

【「第42回共同通信社杯競輪（GⅡ）」開催概要】

開催日：2026年9月18日（金）～21日（月・祝）

会場：富山競輪場「ドリームスタジアムとやま」

所在地：富山県富山市岩瀬池田町8-2

来場者数：17,347名（4日間合計）

総売上：81億8,989万5,500円

優勝者：佐々木悠葵選手（群馬・115期）

【株式会社JPFについて】

1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】

キット内の素材は本プレスリリースを掲載していただく場合のみ使用可能です。

https://drive.google.com/drive/folders/1-2s96ZJb808Jk29zegWQ_7zyNJYe90I2

【本件に関するお問い合わせ先】

ドリームスタジアム富山

TEL：076-438-3400

MAIL：info@toyama-keirin.com

問い合わせURL：<https://www.toyama-keirin.com/contact>